

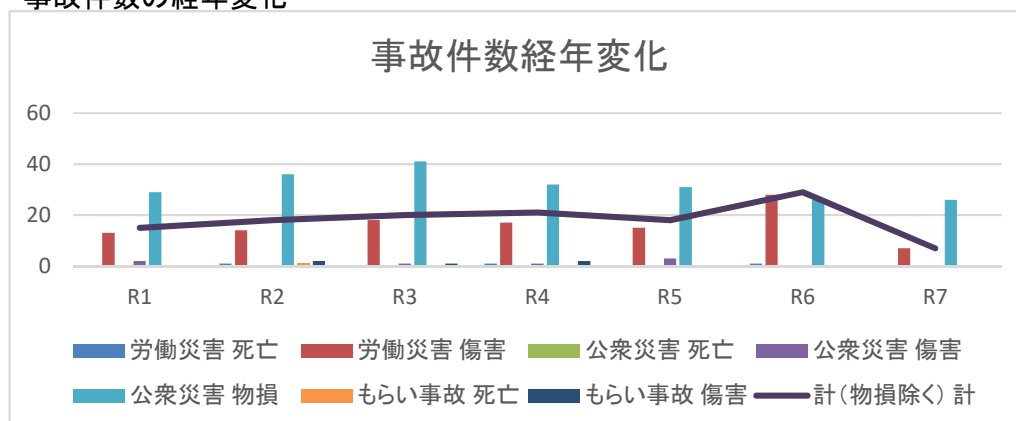
土木・農林土木工事事故分析（令和7年度）

（静岡県交通基盤部工事検査課）

1 要旨

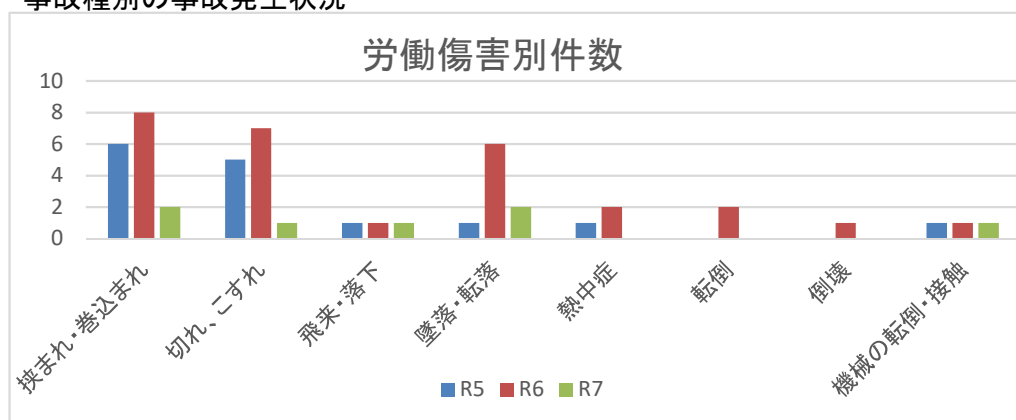
- ・令和6年度は労働傷害事故が多発したが、令和7年度は減少
- ・令和7年度は減少したものの、挟まれ、巻込まれによる労働傷害事故が多い
- ・公衆災害の全体件数は横ばいだが、埋設管の損傷事故が増加傾向にある
- ・令和6，7年度に共通して、作業開始後の9時の事故が多い

2 事故件数の経年変化

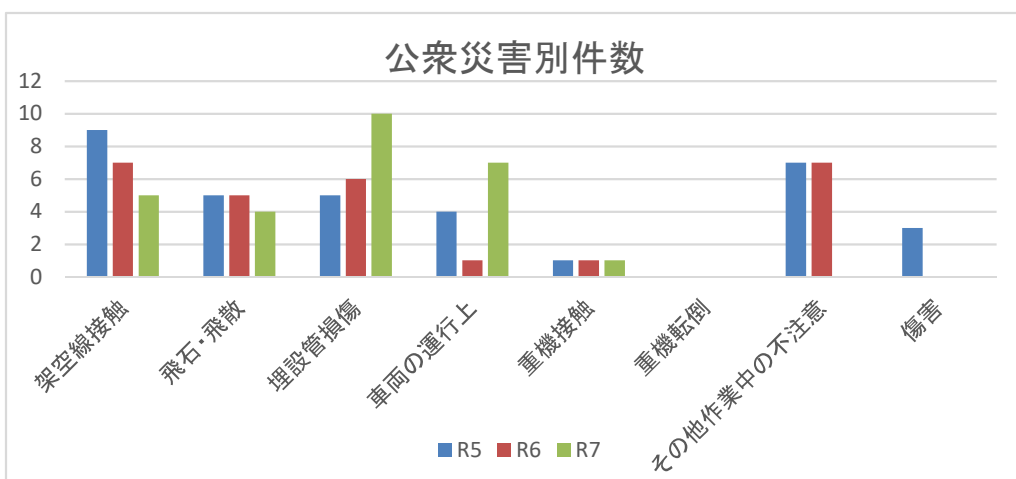


事故件数は平成29年度以降ほぼ横ばいだったが、令和6年度は墜落・転落などの労働災害事故が多発し、令和7年度は減少した。

3 事故種別の事故発生状況

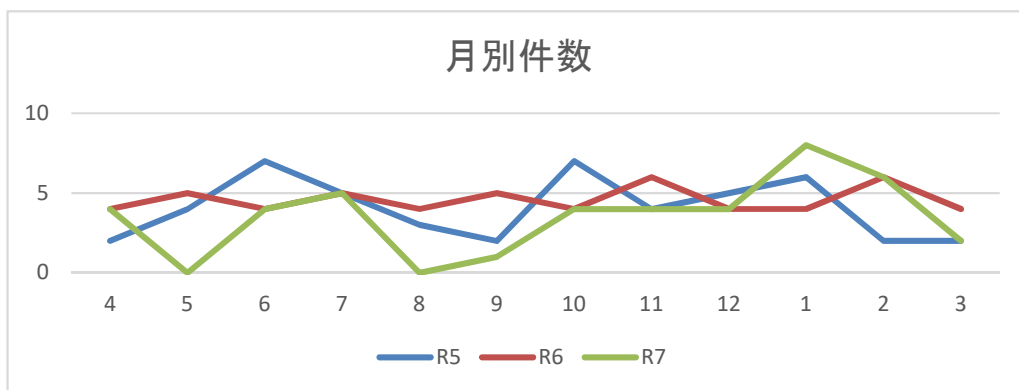


令和7年は減少したものの、挟まれ、巻込まれ事故が比較的多い。



全体件数は横ばいだが、埋設管の損傷事故が増加傾向にある。

4 時期、曜日、時間帯別発生状況

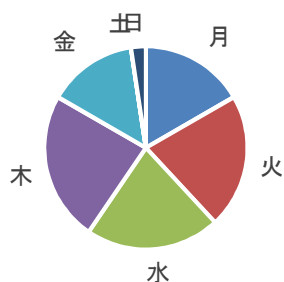


各年度に共通する傾向は明確ではないが、令和7年度は年始に事故が多発。

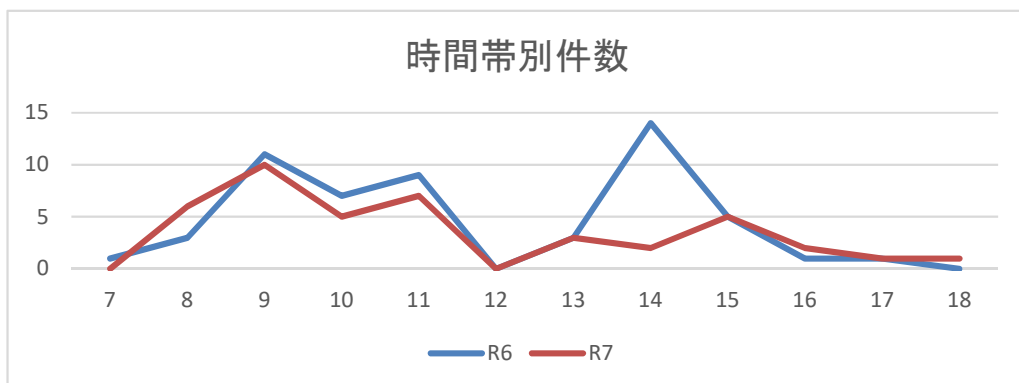


令和7年度の稼働中契約件数に対する事故発生率は年始だけでなく、4，6，7月も多い。

R7曜日別件数



週休2日の定着によるものか、令和7年度は土曜日0件、日曜日1件と少なくなっている。平日の発生件数に大きな差は見られない。



令和6年度は14時の事故が多かったが、令和6，7年度に共通して、作業開始後の9時の事故が多い。